

タイトル	平成 31 年度 推薦入試 教育学部 保健体育 小論文、面接
評価の ポイント	<p>(小論文)</p> <p>健康および生活領域に関する基礎的な知識に加え、思考力、課題発見および解決能力等を評価した。評価に当たっては、次のような点を特に重視した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容性（記述内容の正確さ、発想の豊かさ等） ・ 考察力（考察の深さ） ・ 論理能力（論旨の明確さ） ・ 文章表現能力（文章表現の豊かさ、正確さ） <p>(面接)</p> <p>教育および保健体育に関する基本的知識や課題に対する思考力、判断力、表現力等を評価した。評価に当たっては、次のような点を特に重視した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 問題に対する基礎的知識と理解度 ・ 論理性 ・ 表現力 ・ 将来性（大学の学びに対して意欲的であるか） <p>(小論文解答例)</p> <p>学校の運動部活動は、スポーツに興味・関心のある生徒が参加し、運動部顧問の指導の下、学校教育の一環として行われてきた。運動部活動は、体力や技能の向上を図る目的以外にも、異年齢との交流の中で、生徒同士や生徒と教師等との好ましい人間関係の構築を図ったり、学習意欲の向上や自己肯定感等、生徒の多様な学びの場として教育的意義が大きい。しかしながら、今日においては教育等に係る課題が複雑化・多様化し、とりわけ少子化が進行する中で、運動部活動においては、これまでと同様の運営体制では維持することが難しくなってきた。</p> <p>このような状況を受け、「部活動の弊害とその解決策」として次の 2 つがあげられる。1 つ目は、生徒や教師の数、指導内容の充実、教師の長時間勤務の解消等の観点から、部活動指導員を積極的に任用し、学校に配置することで、円滑に運動部活動の実施するために「適切な運営のための体制整備」が必要である。2 つ目は、生徒の 1 週間の総運動時間の二極化や、生徒のニーズは競技力向上以外にも友達と楽しめる等多様である中、生徒のスポーツニーズに必ずしも応えられていないことから「生徒のニーズを踏まえた運動部活動の設置」が求められる。</p> <p>今後、運動部活動を持続可能なものにするためには、生徒のニーズに応じた運動・スポーツを行うことができるよう、このような運動部活動の在り方に関する改革に取り組む必要があるといえる。</p>